

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 ワーカーズわくわく	代表者	理事長 飯塚 陵子	法人・ 事業所 の特徴	住み慣れた町でその人らしく穏やかに暮らすことを支えることを理念に柔軟なプランを提供している。ターミナルケアへの対応もしており、家族支援も含め穏やかに最期を迎えられる取り組みをしている。自治会の行事参加・買い物や外食など地域連携を強化している。毎月のおたより発行や地域交流会、地場野菜の提供など地域への発信をしている。訪問体制も強化しており、きめ細かなサポートで在宅生活を支えている。
事業所名	わくわくの里	管理者	飯塚 陵子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	人	人	1人	人	4人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	全職員が自己評価に取り組めるよう計画的に進めていく。各項目においてよく理解した上で評価できるよう余裕を持った取り組みをする。	2回目の自己評価となり職員も抵抗なく取り組むことができた。各項目についての説明が不十分だったため回答内容にずれがみられた。	年間計画の中で評価への取り組みを計画的に進めると良い。どの事業所も評価は大変のようだ。	計画的に対応することは昨年同様だが、全職員の取り組みはほぼ達成できているので引き続き取り組みをしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	地域の方々が入りやすい工夫を考えていく。10周年記念企画として地域の皆様に昼食体験サービスを行う。運営推進会議を年に数回は施設内を見ていただく機会をつくる。	無料昼食体験は10名ほどのご利用があり、昼食後アンケート記入も協力いただいた。施設を知る機会になり効果的だった。もっと多くの方に体験いただきたかった。	事業所として努力していることがうかがえる。入浴機器も新しくなり見学させてもらった。事業所を訪問することもあるが細かいところまではわからない。事業所内は明るく感じる。	昼食体験会は、随時発信していきより多くの方に来所を促していく。運営推進会議の開催場所を半分は事業所とする。
C. 事業所と地域のかかわり	わくわくの里だよりを利用しながら事業所のアピールを行い具体的な利用内容など地域の方にわかりやすく発信していく。	お便りの中で、小規模の特徴や使い方等の発信ができた。又相談に来られた方には随時対応し丁寧な説明に努めた。	地域の方の理解を得るための工夫ができている。地域の行事にも参加してかかわりを持つ姿勢がみられるが、認知度は十分でない。	相談事に柔軟に対応できる体制を整えていく。事業所内に入りやすいよう掲示での案内を示していく。職員の接遇研修の強化を図る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	町内にある老人会との接点をつくり具体的な関係作りを築く年度とする。その中で、ともに行える企画を計画・実行できるよう取り組んでいく。	老人会の寿会代表者との接点はもつことができたが、全体での交流は実現できなかった。	利用者ご本人からの要望を聞き取ることが大事。常日頃、利用者や家族に親身なケアを心がけていると思う。	利用者を取り巻く地域について知ることが不可欠であり、地域とつながりながら暮らすことを考えていく。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>毎回の会議内容がマンネリ化してきているので検討していく。また、職員の新たなメンバーを加えていく。</p>	<p>毎回テーマをあげて掘り下げた話し合いができたが、メンバーの増員は実現しなかった。</p>	<p>新たなメンバーに老人会の方を加えてはどうか。また、地域の方や利用者など年を通じてではなく、単発で参加してもらい多くの方々が会議に参加できるといい。</p>	<p>近隣・元利用者家族・老人会・近隣事業者等、多方面の関係者に参加をしていただき意見交換ができるよう計画していく。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>新年度に防災計画を運営推進会議において報告する。地域住民型の避難訓練も含めて年2回以上の訓練を実施する。</p>	<p>書面での防災計画の提示はできなかったが、防災対策については説明をおこなった。また、今年度は水害計画についても報告し意見交換ができた。</p>	<p>自治会の防災訓練に参加して消火栓の取り扱いの習得など学ぶと良い。災害時は事業所と地域との協力が必要と思う。</p>	<p>災害時の自助・公助・近隣との連携など具体的な話し合いの場を持ち、訓練への参加人数も増やしていく。</p>